

議事概要記録

開催日時	令和元2年5月11日(月)	開催場所	メール会議
会議種別	令和2年度 第2回常務会理事会	議長	神藤 洋次
		書記	神藤 洋次
出席者 <敬称略>	竹中 正人、木下 博之、田中 規仁、神藤 洋次、田原 靖子、栗林 伴有		
欠席者 <敬称略>		オブザーバー	丸澤 佳子、久保 光史
次第			
議事概要	ALPおよびLDにおけるIFCC対応法移行のための情報提供について 総会出席役員について総会時の表彰者について 令和2年度和臨技精度管理調査事業の実施について		
決議事項 及び 継続事項	<p>(1) ALPおよびLDにおけるIFCC対応法移行のための情報提供について</p> <p>学術部長より、日本臨床化学会(JSCC)では2020年4月1日より血清アルカリフォスファターゼ(ALP)および乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)について、常用基準法を国際臨床化学連合(IFCC)の基準操作法に準じた方法に切り替える方針で、今後1年間をかけて国内の施設に対し、切り替えを進めていくことになり、今年度の施設責任者会議で話し合う議題であったが、新型コロナウイルス感染症のため延期になり、各施設に情報を提供するための内容を承認し、理事会(メール会議)で審議することで確認した。</p> <p>(2) 総会出席役員について総会時の表彰者について</p> <p>事務局より、現在、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっているなか、役員の感染の機会を減らすために、和臨技定時総会においても役員の出席者を選出したいと提案があり承認し、理事会(メール会議)にて決裁を仰ぐことを確認した。</p> <p>(案) 出席して頂く役員</p> <p>次期理事(田中、神藤、田原、栗林、久保、丸澤、森下で往来等を考慮した7名)、現会長(竹中会長)、資格審査委員(森井理事)、選挙管理委員長(医大 中村さん)、監査(ひだか病院 畑監事)、総会議長(2名 医大)、書記(2名もしくは1名 医大)、議事運営委員(医大 松下さん1名)、最大16名です。</p> <p>(3) 令和2年度和臨技精度管理調査事業の実施について</p> <p>学術部長より、新型コロナウイルスの流行に伴い、現在、和臨技全体の事業が頓挫しており、精度管理事業の中止も考えましたが、和臨技精度管理しか参加していない施設も多数あり、また、検体管理加算を取得する要件として外部精度管理の受審が明記されていることなどから、今年度の精度管理事業を実施したいと考える。</p> <p>しかし、日臨技システム導入に伴う会員への説明会開催や、班員による試料の事前調整ならびに梱包・発送準備の際の参集等で支障が出る可能性が高く、学術部長・精度管理委員・班長等と検討を重ねた結果、例年通りの内容で実施できないと判断し、事業を縮小した形で行いたいと提案があり承認し、理事会(メール会議)にて決裁を仰ぐことを確認した。</p> <p>&lt;今年度の和臨技精度管理実施内容&gt;</p> <p>1. 対象項目はCBC・生化学のみ(試料調整の必要がないこと、参加対象施設が多いこと)</p>		

	<p>2. システムは次年度までの旧運用にて行う(JAMTQC システムの運用は次年度へ繰越)</p> <p>3. 試料・梱包発送準備</p> <p>(従来通り和医大検査部の使用許可を頂く、梱包作業も和医大所属班長・班員に協力頂く)</p> <p>竹中会長より和歌山医大 中村技師長に経緯説明の上、ご快諾頂いている。</p>				
記録作成	令和2年5月25日	氏名	神藤 洋次	提出	令和2年6月2日

※ 諮問委員会で「報告書」が提出される場合、「委員会議事録」が別途作成添付される場合は添付資料で可